『心』予告

夏目漱石

今度は短篇をいくつか書いて見たいと思ひます、その一つ一つには違つた名をつけて行く積（つもり）ですが予告の必要上全体の題が御入用かとも存じます故それを「心（こゝろ）」と致して置きます。

底本：「漱石全集　第十六巻」岩波書店
１９９５（平成７）年４月19日発行
初出：「東京朝日新聞」
１９１４（大正３）年４月16日
「大阪朝日新聞」
１９１４（大正３）年４月17日
※初出時には、「小説予告」「心（こゝろ）」として発表された。
※底本のテキストは、「東京朝日新聞社内、山本松之助宛書簡」１９１４（大正３）年３月30日付による。
※作品の表題「『心』予告」は、底本編集部による。
※ルビのうち亀甲かっこ〔〕付きのものは底本編集部

によるもので、現代仮名遣いである。
（例）　積（つもり）ですが
※底本には次の記述がある。「「必要上」は、原稿では「必要用上」となっており、本全集本文のとおり訂正した（新聞も「必要上」）」
入力：砂場清隆
校正：小林繁雄
２００３年３月31日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、

校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。